

臨床予防歯科学特論

Advanced Course of Clinical Preventive Dentistry

キーワード

- ① フッ化物応用
- ② スポーツ歯学
- ③ 歯科疾患予防
- ④ 器質的・機能的口腔ケア
- ⑤ 生活習慣改善

授業概要

口腔の2大疾患は齲蝕と歯周病であるが、現在ではスポーツ歯科医学、広義の口腔ケア、歯の損耗（酸蝕、咬耗、磨耗）、口臭など口腔衛生が担う臨床上の守備範囲は広がっている。これらの疾患の予防とコントロールに必要で有効なフッ化物応用、スポーツ時のマウスガードの使用、専門的口腔ケア、器質的・機能的口腔ケア、歯の損耗予防のための飲食、ストレス、薬剤服用、ブラッシングの改善、その他の歯科疾患に関する臨床予防歯科学の知識と技術を修得する。

授業科目の学修目標

咀嚼、嚥下、会話や表情などに関与するため口腔機能はQOLに与える影響が大きいことから口腔機能の低下を予防することは重要である。個人やライフステージに応じた歯科疾患の予防とコントロールに有効な方法を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 最新のフッ化物の局所応用と全身応用の知識と技術を修得する。 6コマ 山本龍生
- ② スポーツ歯科医学とアンチドーピング活動に必要な知識と技術を修得する。 8コマ 木本一成
- ③ ライフステージに応じた口腔ケアの知識と技術を修得する。 8コマ 川村和章
- ④ 歯の損耗と口臭予防に必要な最新の知識と技術を修得する。 8コマ 宋文群

教科書および参考書

- ・フッ化物応用と健康—う蝕予防効果と安全性— 口腔保健協会、日本口腔衛生学会 フッ化物応用委員会編
- ・要説 スポーツ歯科医学 医学情報社、石上恵一 他編
- ・口腔ケア基礎知識 永末書店、日本口腔ケア学会編

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

歯科疾患の発生機序や予防手段を学修する。口腔領域に発生するスポーツ外傷や競技スポーツで実施されているドーピングコントロールについて理解する。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① フッ化物の局所応用と全身応用を説明できる。
- ② マウスガードやドーピングコントロールを説明できる。
- ③ 幼児、学童、成人、高齢者、障がい者などに適した口腔ケアを説明できる。
- ④ 酸蝕、摩損、咬耗や口臭予防を説明できる。

評価

| 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 | ポートフォリオ | 口頭試問 | その他 |
|-----|------|------|------|---------|------|-----|
| 80% | 20% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% |

評価の要点

- ・試験は授業後の知識の理解度を判定する。20%×4回=80%
- ・授業項目ごとに小テストを実施する。5%×4回=20%

理想的な達成レベルの目安

臨床予防歯科学特論の理想的な達成レベルは、総計80%以上を目安とする。